

コロナの時代のリモート納涼会

社会福祉法人せたがや檜の木会 世田谷区立下馬福祉工房

長見 亮太

(主体性の発揮を目指して)

1. はじめに

新型コロナウイルス感染拡大とそれに伴う4月の緊急事態宣言を経て、当施設の活動も大幅に変更せざるを得なくなった。利用者さんに通所の自粛をお願いしながら在宅支援の実施。感染予防をしながら徐々に通所してもらえ体制を整える時期があり、感染予防と活動の両立の難しさにも直面した。これまで通りにはいかない活動の中で、改めて施設の担う役割について考えさせられたり、利用者さんに対してこんな支援が必要なのだ、という実感を得ることも多くあった。コロナ禍での工場の取り組みについて振り返り、大事にしたい視点を考察する。

2. 経過

【4～5月】施設は開所していたが大幅な活動の制限を行った。

【6月】分散通所を行う。感染予防を行いながら活動を実施する形を模索した。

【7月】徐々に通常の通所体制に戻っていった。感染予防を続けながら、利用者さんが安心して過ごせるような関わりも大事にしてきた。長い在宅生活を過ごすことになった利用者さんの様子から、自己表現や発散の機会が損なわれたことでの不充足感が感じられ、日々の活動の中でも自己表現の場がこれまで以上に大事になると感じた。発表の場面で遠慮がちになる方が多い時は、職員がリードして話題を振ったり、休みの方の分の代役を立てたり、尻すぼみにならないよう工夫を加えた。

3. 経過を踏まえた日中活動の検討・実施

【七夕イベント・誕生会・歓迎会】

様々な行事はこれまでも期待感のある場面。3～6月に様々な行事が中止になったことで見通しが崩れ不安が増す方も多かった。7月に入り、活動の形が段々と整っていく中で、行事についても「どうすれば行えるか」の視点で方法を検討した。これまでのように大勢でにぎやかに行くと感染予防が難しくなってしまうので、2会場をリモートでつなぐオンライン開催を考えた。これまでとは違うやり方で、通信の不具合など思うように進行できないこともあったが、利用者さんは戸惑うよりも新しいやり方に面白みを感じてくれたようで、積極的に参加し楽しむ姿が見られた。元々工場の取り組みとして、仲間と楽しむ場面を大事にしてきたため、違ったやり方でもきっと楽しい時間になるはず、という期待が土壌としてあったのだと思う。

【リモート納涼会】

何度か重ねたリモートイベントの経験を活かし、夏の恒例行事をリモートで開催することにした。昨年納涼会の1コーナーとして行った「お笑いグランプリ」を拡大して、各利用者さんが得意にしていたり、興味のあるお笑いや劇、歌やダンスを披露する形で2会場の「リモート納涼会」を行うことにした。二週間ほど前から利用者さんと担当職員で演目を考えた。利用者さんの関心に合わせながら

単に借り物文化にならないよう、利用者さんの持ち味を出せるように、との思いで工夫を加えた。

練習を通してユニークな仕上がりになってきて、本番でも自信を持って出番を迎える姿があった。自分の関心のあることを表現して、その楽しさを仲間と一緒に分かち合うことが、日々の過ごしへの張りにつながっていくのだと改めて実感した。行事が予定通りに行えて安堵する様子も見られた。会の翌日にはもう「今度は～をやりたいな」と話してくれる方が何人もいて、何より嬉しく思った。



4. まとめ

感染予防と、日々の活動の充実の両立は今もって難題である。安全は大事だが、制限ばかり増えて、職員の方も「何事もないのが一番」と考えるようになっては、利用者さんの暮らしがより窮屈になってしまう。意欲が沸き上がってくるような自己表現の機会や楽しさの共有は、コロナ禍の中であって改めて大事さを感じる場所である。困難な時期だからこそ、一人一人のよりよい暮らし、自己実現に向けての支援を考え、工夫することが大事と思う。

oo

<助言者コメント>

横山 順一（日本体育大学体育学部健康学科教授）

.....

発表事例に興味深く拝聴させていただきました。コロナ禍において想像を超える大変な施設運営が続く中、本当にお疲れさまです。感染予防と活動の両立による業務ご多忙の中であって、このようなテーマで事例発表をしていただいたことは、とても重要だと考えます。この発表により、現在も運営に苦慮されている方々に対して参考事例を提示することができたこと、そして未曾有の事態に施設がどのように対応したかという記録をこの学会として残すことができました。

昨年まではリモートでの納涼会など考えもつかなかったかもしれません。しかしながら、「どうすれば行えるか」という視点で職員の方々が検討した結果として新たな開催方法が開拓されました。また、それは行事への参加方法の選択肢を増やすことにもなり、これからは会場に足を運ぶことができない人にも参加していただける可能性が出てきました。

今後も支援における様々な工夫を外に向けて発信していただけると嬉しく思います。